

70

65

60

55

50

花江都  
歌舞妓

年代記

初編

四

津田文庫

文庫 1

1767

4



## 役者名所ばくし

井立席されぢらまきひふれ等方に日中行られて山隣村より出でんと。本田  
吉光のめみどり堂がゆうて。まち半里ふ夕部あせりほへられべ。あーきひお姿とぞき  
コロモ園平席そアやうの松みをえをよそあれど。ゆめのゆよそのお半はなみ。  
丈まな橋があつて。まき橋の中よ。八十じうけも年すが。まんきをまぬと暮  
をうて。まくは。ゆめの暮とお墓をくわめて居る。まお年よりが  
ゆふ向きて。ゆい孫よ。われハ我がぢの下や。わづが祖父の覺榮とぞよ。我ゆる  
さへばとう材の浪杏の木の年に。年久きうかの程よ。おが順つてがゆふ。じ  
あちへ遠てこしよ。じれが位牌下じや行ふ。又ひとう材の木の本へ歸るとも。一度も  
橋の木ねひとくばれてこしよとちやうほ。私がやすらか。まくはゆく物ふ  
てゆなるふよと。まも供へぬまとはれとやほへれべ。そんううけ橋をする  
ほくよ。にれを。病がならまつあつて。ひぞこゑを渡せよ。おひまゆると

うちとまうとほこと園南多高の法陀佛サヤ蟻アリ蟻アリとおひみて物が附

る。それがよ。お堂のしきりに橋の木があつむよと。アとくせに。ひるゆきやとぞ  
ども捐がる。せひへ届うごとくしたのであらうとゆからちふ。橋がこゝに  
袂へがてうと送入すた。板がぢのまぬの正義の告アガシやとぞとぞまゝ。浪杏  
の木ねあつゆくとぞ。又お半ハーフのうふか。なんといふ材マテや。と百姓ヒトのうふ  
たれづけ橋のあつ材マテ。市村といふ在下又ひてうれ木の育材アキラカ。市村といふ室  
ふくしてからふといふて。その百姓危ハザふらうと。えまでくまつましとひよ。  
國ハそもそもかーとひ娘娘ごとやれ。そてゆきお姿アラと見まうあれと。なに百姓  
お教アシスられとひて。まく小足アシぐ一人ヒトへあくしをひくと。あととゆ村といふ  
ども。中村と市村。う材場マテヤマ。大まき山うつて。其下ヨリ大まき谷アマカがうつて。よう  
やく難所アシドシトやづや。あいを大谷アシカムのそがも。坂東サカタのれ下アシがござんアシと  
坂大谷アシタカとがくと。坂東サカタのれ下アシが。それと川アシからうがや。アアイその川

おとし出は<sup>ト</sup>。國<sup>アリ</sup>あ川<sup>アリ</sup>の名を笠てう<sup>サ</sup>。アイ其川<sup>アリ</sup>へ中村へも市村へも滝見  
てのとく。一ツの川なれども、一ノ助がつれて、川の名は瀧川<sup>アリ</sup>といふ川<sup>アリ</sup>やとやまは、  
ぶさん。其川<sup>アリ</sup>もみゆ。かくあつて、氣の荒<sup>アリ</sup>は、その川をりつりうるべ  
世道<sup>アリ</sup>生<sup>アリ</sup>りゆ。野<sup>アリ</sup>は、伊勢<sup>アリ</sup>せの地<sup>アリ</sup>や、げゆごぶんを。それを通りて  
中村の東山<sup>アリ</sup>へとづひま<sup>ト</sup>。國<sup>アリ</sup>穂入<sup>アリ</sup>、波村<sup>アリ</sup>といふ村で、又せき<sup>アリ</sup>二メシ<sup>アリ</sup>みづか  
や井<sup>アリ</sup>あいを<sup>アリ</sup>せん<sup>アリ</sup>萩<sup>アリ</sup>とづひ。ま一<sup>アリ</sup>の野<sup>アリ</sup>に、論<sup>アリ</sup>のとくをふとく<sup>アリ</sup>。や  
あがんを<sup>アリ</sup>、國<sup>アリ</sup>まうじ<sup>アリ</sup>中<sup>アリ</sup>。は、底<sup>アリ</sup>あとく宿<sup>アリ</sup>へからそ<sup>アリ</sup>。春<sup>アリ</sup>、市<sup>アリ</sup>、村<sup>アリ</sup>と  
いふとく<sup>アリ</sup>。やのあ<sup>アリ</sup>を、通<sup>アリ</sup>りて、山<sup>アリ</sup>をこえ、谷<sup>アリ</sup>を越<sup>アリ</sup>。國<sup>アリ</sup>あちく村<sup>アリ</sup>の大谷<sup>アリ</sup>、  
井<sup>アリ</sup>、瀧<sup>アリ</sup>、や、波<sup>アリ</sup>。もぐりうき<sup>アリ</sup>。あちく村<sup>アリ</sup>の大谷<sup>アリ</sup>、國<sup>アリ</sup>本<sup>アリ</sup>、塙<sup>アリ</sup>。  
綿<sup>アリ</sup>。なが<sup>アリ</sup>を、毎<sup>アリ</sup>じて、かくでめくら<sup>アリ</sup>。自體<sup>アリ</sup>を、くじ<sup>アリ</sup>田<sup>アリ</sup>を、やせ<sup>アリ</sup>。湯<sup>アリ</sup>。  
國<sup>アリ</sup>坂田<sup>アリ</sup>を、窓<sup>アリ</sup>と、小坂<sup>アリ</sup>が、びり<sup>アリ</sup>。けせふく<sup>アリ</sup>。くわうと、ねす<sup>アリ</sup>。もくす<sup>アリ</sup>。  
あ<sup>アリ</sup>、國<sup>アリ</sup>、通<sup>アリ</sup>。そのあ<sup>アリ</sup>と、あく<sup>アリ</sup>て、夕<sup>アリ</sup>の愛<sup>アリ</sup>が、めやくら<sup>アリ</sup>。まこと、二條<sup>アリ</sup>。勤<sup>アリ</sup>

の枕<sup>アリ</sup>。まくろに、あくろ<sup>アリ</sup>を、ぬるや。東西の往<sup>アリ</sup>。南<sup>アリ</sup>の道<sup>アリ</sup>を、まく<sup>アリ</sup>。稚<sup>アリ</sup>  
ごく<sup>アリ</sup>あたごう<sup>アリ</sup>。まく<sup>アリ</sup>。うかと、見<sup>アリ</sup>の旅<sup>アリ</sup>の空<sup>アリ</sup>を、まく<sup>アリ</sup>。國<sup>アリ</sup>の  
よし<sup>アリ</sup>へ、駆<sup>アリ</sup>。と、あく<sup>アリ</sup>。あく<sup>アリ</sup>。と、りか<sup>アリ</sup>。あく<sup>アリ</sup>。こ<sup>アリ</sup>とも、同<sup>アリ</sup>。かく<sup>アリ</sup>。まく<sup>アリ</sup>。あれこの  
ほく<sup>アリ</sup>も、われ<sup>アリ</sup>。じく<sup>アリ</sup>。あく<sup>アリ</sup>。と、りか<sup>アリ</sup>。あく<sup>アリ</sup>。こ<sup>アリ</sup>とも、同<sup>アリ</sup>。かく<sup>アリ</sup>。まく<sup>アリ</sup>。あれこの  
守<sup>アリ</sup>。ぞんの、御<sup>アリ</sup>。まく<sup>アリ</sup>。まく<sup>アリ</sup>。まく<sup>アリ</sup>。まく<sup>アリ</sup>。まく<sup>アリ</sup>。まく<sup>アリ</sup>。まく<sup>アリ</sup>。  
人<sup>アリ</sup>を、娘<sup>アリ</sup>。井<sup>アリ</sup>、水<sup>アリ</sup>。あ清<sup>アリ</sup>。國<sup>アリ</sup>。とくとく<sup>アリ</sup>。とくとく<sup>アリ</sup>。我<sup>アリ</sup>子<sup>アリ</sup>と、名<sup>アリ</sup>。合<sup>アリ</sup>  
よも大悲<sup>アリ</sup>の誓<sup>アリ</sup>。見<sup>アリ</sup>一切功德<sup>アリ</sup>。意眼<sup>アリ</sup>視<sup>アリ</sup>。尻<sup>アリ</sup>。國<sup>アリ</sup>福聚<sup>アリ</sup>。海無量<sup>アリ</sup>  
むと<sup>アリ</sup>。お<sup>アリ</sup>。さぬ<sup>アリ</sup>。テ<sup>アリ</sup>。南無大慈大悲<sup>アリ</sup>の観世音菩薩<sup>アリ</sup>。

合<sup>アリ</sup>の事<sup>アリ</sup>。浦<sup>アリ</sup>の大助<sup>アリ</sup>。大谷<sup>アリ</sup>度<sup>アリ</sup>。宇<sup>アリ</sup>清<sup>アリ</sup>。大助<sup>アリ</sup>と對面<sup>アリ</sup>。連判状<sup>アリ</sup>を、讀<sup>アリ</sup>。上<sup>アリ</sup>下<sup>アリ</sup>右<sup>アリ</sup>  
腕<sup>アリ</sup>へ、もりつけん<sup>アリ</sup>。そ<sup>アリ</sup>と、立<sup>アリ</sup>。文<sup>アリ</sup>を、讀<sup>アリ</sup>。大助<sup>アリ</sup>と、結合<sup>アリ</sup>の、下<sup>アリ</sup>より、そ<sup>アリ</sup>  
を、上<sup>アリ</sup>。田<sup>アリ</sup>を、國<sup>アリ</sup>。出<sup>アリ</sup>。さひざん<sup>アリ</sup>の、かへ、宴<sup>アリ</sup>。賴朝<sup>アリ</sup>。と、あく<sup>アリ</sup>。味方<sup>アリ</sup>。

源氏の白旗を派そ不大歎。川は後家ふ瀬川。而次郎鎮西八郎。又は五郎なり。森田座ハ 猛男權五郎景政 市川國兵。後立郎の役。安倍の家。任。甫ちう。鳥の海小龍左衛門。負任女房。袖當和。方浦。中村座と 大誓葉。源の成朝。次郎家。十郎。つこう。民部小姉川新臣郎。今川仲秋。柳山小四郎。かじ田武考。助。市川家。二郎。頼兼。野修。一郎。ふとの吉。酒門。鶴見南北。ううどもの湯基。さよ浦。湯井。瀬川。茶々原。う。享保十八五年。春市ひづ座。

榮分身曾我 立郎。十郎。二役。奉十郎。秃さみ。び。将升立郎。白酒。う。本名。祐成。因。十郎。あへ。け。合せ。り。ぬ。大。評。利。大歎。江戸。中。男。女。子。代。ま。で。是。と。ま。似。る。次者。同年 中村座 妻懲隅用 不入也。して。跡。狂言。出入の湊。又。松の忠右衛門。よ。姉川。新四郎。嶽川の庄。多。清。市川家。二郎。もん。も。の。主。兵。清。次郎。十郎。大。む。う。かん。く。同。霜。月。嵐。こ。ち。舞。下。れ。市村座。龍。見。世。正木太平記。藤原の。ち。園。十郎。



## 地にかけ合せり

市川升五郎

先りよりと初は合ながむよひひのをも。しめの縁日まわる薬師  
を寅にしきた旅の買がて、其の家がへよどひてアヤカへ出でる者。  
八千人六名の子ひれども。白酒うどせひなれ。せひな里のかうりよ山神  
をまの説経ゆも。あらがう答へやわかの其事とて待乳山今龍丸  
大好庵へ宿候ある池のそとまき。わんの丸まく一ぐさんまのすゞみ  
社書をさへざり。医者のわざのつぐべあつりぬをそるとかや。ちりけず  
かく神田橋へびうつむかひゆ。のむみあがの蟬丸の圓葉芭蕉入香さん。  
鞠の小六があつて。おじてけんまく。おひでけんまく。や。虎頭げげとくまう  
みねだ。芝橋まくとからざざくわ。先のほの喜び。おどりもあがまが  
たり。食てハ文うとぶせとまくら。大さんのこちやのまくせんぐとくら。あ  
がうだらば。さんみくまつてくわ。おど安物の錢りしるひ邊り一木の

猫よひうれどりくがむ。ちひせんの穴ゆきある。巣ひきがくすふ。くじてようお  
の穴みぞ入なき。おちるうてくせ。すりびの。めうどうくとぞうすと。巣の穴を  
渠ふききや。あいづが穴を渠塞ひぐ。とまくぬをあまうすおどや。ほのいの  
おとん夫を官ふ壁たまくは。上ねづ中ねづあくと方渠。渠ぐぐくづくのねのく  
跡上うとどそくわる。それへハ居のまぢ。ゆくともよりやねむらの門跡あり。  
もうとやもまきよ入て。だうせうがくへ佛のまく。女郎の光うへあげやの二階。  
二うひあまきの剥漆をまで。おとづらふがく解り。おもひだらちよと達まよ  
といひ天の明後日はひそせ八日。不動まくのアムがく。にふとおふがまのまから。  
おとづらふとおまきまくまく。おひじゆくぬと脱れうへ。やあやがう  
ほづおまん。おうへ國土せうひおまくが。おもひまくぬと脱れうへ。やあやがう  
たつやあやがく。あやがくをまく。おとづらふとおまん。馬一枚と一枚。  
まんまきのまく神のまく。おとづらふとおまん。馬一枚と一枚。

ねまうまと國のどれう。も年ぬかて縛めひ弱へ京うへどうけ。曾山小矢  
を取そえてがの足すのじ生う。笄とまくはやと。も因縁のかゑに油くま  
うばくのやうでさうとへまさうのちあひぐくらひ。ひづもあつやめをす。  
ちうやさぎのからだ。只こみうにあひとせとひづな(ま)の葉あがみ。さいさい  
さひみあじまひひくわかくせてもすくちにやくまひ。浦邊を即(こ)へふ  
ざん。そむうさとびがたみさひ。ふくはれ大喜客(おほききき)とぞ。又こアやくせう  
くおひの。國(くに)まがのたぶのみが、すふ。ちう合のつてく三ノつれ酒盃(さかわん)をう  
うたおへゆ。國(くに)かる松をまわくばしたか。うる巣(す)のたごに入一(い)。香(こう)ふつ是(これ)  
あう粉(こ)ふうとび。うるとくもどとびとまや。横笛(よこ笛)。ほんの宮(みや)の立姿(たてす)  
に。まふがくまびもまく。酒(さけ)はまう白(しら)りとまに。わうと里(さと)へ山(さん)ぞくら。かんを  
志(おも)りがく。もみまおへそんざばまく。そつじうがるせ。社亭(しゃてい)主(ぬし)のとまふ  
あへじ。豆(まめ)がく。怪鬼(けがい)がまうるうねがでふ。をれ打(うち)かへ。一升(いっせう)ひいだ。せせえ。

サハ文サニ文をさ。秋の夕べれ。またとくあきうる嵐(あきうる)後。そみ儀(あみぎ)の二本折。嵐  
がまほうる。小野(あ)の里(ま)。小野(あ)の町(ま)。みせうへ。夜のあも大雪(あかゆき)のあらうが中  
のあらうのひよ。ひよの裏(あらう)。かふ梅酒(かふうめしゅ)。つまひのふ櫻(さくら)。わらうばと  
てうらんうらん。あかせ。こづのせうの桜(さくら)。めぐるまみそくまじ。こづう。井(い)とくと  
國(くに)あらう。井(い)とくと。井(い)とくと。井(い)とくと。井(い)とくと。井(い)とくと。  
令(れい)刻(こく)と。井(い)とくと。大車(おおぐるま)と。おもむき。笑(わら)い。が。ちん  
さとう。井(い)とくと。おもむき。笑(わら)い。が。ちん。井(い)とくと。おもむき。笑(わら)い。が。ちん  
さとう。國(くに)。井(い)とくと。白酒(しらさけ)。一升(いっせう)。井(い)とくと。井(い)とくと。  
四方(よの)のまき。がまほの兵(ひょう)。しるこの神(かみ)。あだん。舞(まい)。舞(まい)。舞(まい)。舞(まい)  
げ。じと。じと。即(そく)度(ど)。大(おお)く度(ど)。のぼまんをされば。あはま。がく。と。うの。出(で)の。小(こ)櫻(さくら)。まき。自  
軒(こしん)。かきのと。ぬきのと。のと。まち。まち。行(い)。箭(の)。唐(とう)。一(い)。の。え。庚(こう)申(しん)。せ。二(ふ)。夜(よ)  
二(ふ)。人(ひと)。まか。らう。そく。立(た)て。本地(ほぢ)。燭(しやく)臺(たい)。せ。がま。すり。わら。みの。たま。の。皮(は)

十九年や構ひどまんえ。なりしむうわだらうらう「唐人よ落達アリ」を  
うみてせきとひ。緑巻の助六者店かへて門を清むべからうめげじとくとく  
もう新町が。門が。ひがいと女郎が。かりみをひげ。さうとく綱や。さう欲や。  
そとみ一あにまくねとりふて。これまえらみがすと。されどとまくい  
よ。ひるみのちのふゆめひなでふは。わなもなれせぬ中巻中。灯をら辰を  
寅せうと。大底小いそ。悉そほりてあらとくる。そのほくむ絆のみ縁すと  
ちるをじのすと羽子振りにて。ひとと。あたと。よし。りゆもからくねば  
さうわう。ナシナシ。下桂もがくよも地にゆ。どーつなかとげ。モゲカシラカギ  
く。六十四のじよものと。白泥賣あ。ねぢりまくと長口上。でも兵主の  
を。町冠者。アヒぞに先を。さうか。そうて。うまう。一分ひば。よそひ清水  
の。て。も。花香のちやばつか。それ。祇園のけづり。ナーナ。ひよづま  
の。の。の。の。の。かくして。がとうの。おの。おの。うちの。判官。うづらの。太くらふ。うを

あひよして。あひよもつたよ。おはれ。弄みも。化人。すざごの親子の。地くら。千秋  
万葉。寶の市村。やくの。と。さき。あんぞえ。さぶの。太え。ド。うへ。百万  
年の。口。と。あへ。からや。まく。と。まく。

せひふのまく。中間悪ハ。半名栗生。た。唐門度。宿。細六良左。坂東。產と。即。新田。義貞  
竹。寒。せひ。の。まく。ふ。氣。次郎。雪。せひ。の。而。深。判。は。二。役。國。十。郎。楠。成。よ。成。五。不  
大紋。の。形。井。五。郎。正。行。ふ。て。瀬。川。の。ゆ。し。大。深。判。一。ぞ。ん。も。あ。び。く。の。生。善。を。夫。滿。糸  
を。猿。よ。仕。立。上。下。に。く。意。馬。心。猿。の。せ。り。ぬ。よ。そ。か。ん。ぞ。の。下。大。齒。と。く。の。顔。見。世  
三。右。浦。門。病。氣。ゆ。て。出。ぞ。中。村。座。ハ。櫛。葉。旭。源。氏。家。十。郎。頼。朝。の。役。二。ぞ。ん。や。小。條  
の。館。へ。女。と。な。り。て。入。と。み。乳。の。吟。味。の。付。茶。う。ん。を。乳。房。は。て。さ。み。ぐ。の。お。じ。三。川。津  
が。後。家。ふ。勘。た。郎。から。永。う。み。女。房。友。笠。よ。萬。三。恩。う。く。名。香。の。ま。ま。ふ。植。の。舊。ふ  
漱。お。に。た。う。そ。と。源。氏。の。も。と。く。べき。湯。相。と。形。ハ。女。な。が。ら。頼。朝。の。こ。く。絶。ま。ち。

大評判。うらふ新郎。又野中家。二郎。そがの太郎。中村吉兵衛。これへ遙外  
方まで其ごろの評判記す。上上吉仇名を二朱判とひ。け移見世より中村座  
若狭を支勝十郎。子役初舞臺。長尾がむとも早咲かて神幸社西門とほどり。  
後年侍九郎と改。又八代目勘定郎と。うる。森田座へ繪屏風酒樂臺。金時。中  
園参役者三人坐て不入り。享保十九寅年春中村座へ太公今機せざ  
九郎助狐の女郎買。市川家三。眼の工夏姉川新郎。柔之丞。生贋の狂言  
小室十郎赤の次郎。坐てつぶみおわらせ。海あらたひ。此所の悲歌。仍も古今  
稀うれ大曲。今世までいひ傳ふ。一だん目。立目の對面家三郎。工藤。大谷  
詮左衛門。梶原。中村吉三。猪朝比奈。二條勘定郎十郎。伊之郎五郎。家十郎。京  
の次郎。坐て小袖をまうのせりぬ。大評判。えかく。ふあらん。才三ぞんや。久賀  
浅間。獄都秀をま千中。ワキ都令を支。之中。右淨うりかで。第。と。家十年。

## 吉辰年イ言

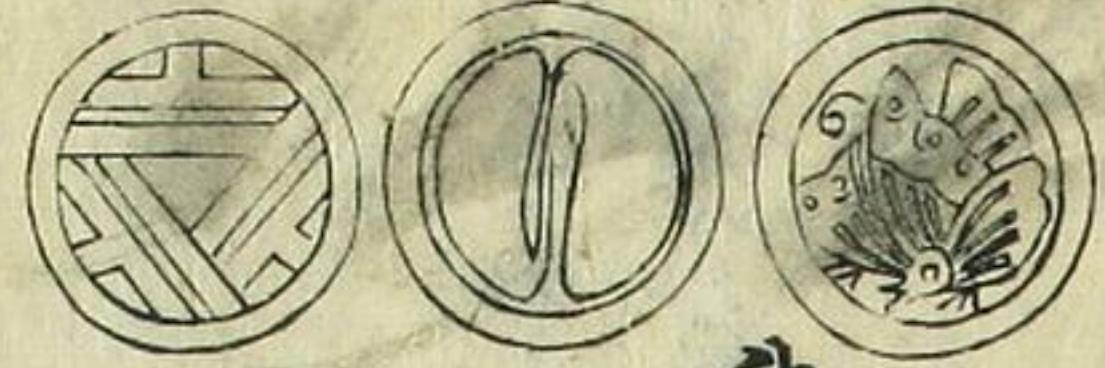
五郎付家  
萩井伊二郎小袖  
きぬの  
せりぬ

七二

七二

京番

宗村座

十郎と成  
二條勘定郎

こそを  
小袖をすうれせりぬ

二條勘太郎

市川宗二郎

合

荻野仲三郎

大谷龍左衛門

中村吉兵衛

事  
そひまんさがら足す。あじとす繩のけん上。筋縫どめをつる垂斗。かわうての  
そと心。どうぞはれ。京のあ。かこ中京の繩をす。加茂のゆき院是こそへお深  
泉。紅京がと。京の小次郎。祐きが。井上のあ。ま繩古宴を。深浅をまづる。  
縄原をかげと。初のま金ふひうふを。なほ接投下やなあ。ひえん隼  
をそゆ。狐虎のあ。かり。来の栗にとびくる。しらと。淺捕が。はくと。身の経  
あくね接投時。家稱と。やうき。ま。けい。傍若無人。とく。の。眞公ふ。意。あれ  
のと。今一度。あめのまつやまると。腮へあまとう。面の皮を。引く。ぞ。あまき  
夫よ。構ひ。どす。袴糸の古宴を。や。ぬ。け。の。身。あ。せ。う。ね。ぐ。京の次郎。と。け。き  
幼少より。京都。ふ。育。堂。上。み。た。ち。入。を。有。傍。へ。岸。へ。ほ。て。ひ。ま。り。ま。と。す。抑。羈  
の始。り。入。室。と。至。く。冠。を。り。つ。或。ハ。紫。濃。紅。緋。綾。の。織。の。量。よ。縫。り。の。と。

かぎり用。財。ふ。天武天皇。十一年。に。あつて。夏六月。初。て。深衣の冠。と。る。笏。とり。と  
も。い。官位。下。を。定。折。多。じ。と。鷹帽。予。あ。ひ。小。結。侍。急。じ。星。す。り。鷹。の。り。と  
用。絆。も。ま。と。本朝士。あ。よ。え。の。官。な。れ。の。へ。淨。衣。ふ。立。と。と。用。折。多。じ。ふ  
と。あ。絆。へ。出。行。の。服。し。と。ぞ。ひ。じ。へ。淨。衣。の。下。に。赤。じ。下。が。ま。絆。と。と。せ。り。そ。れ。す。り。後  
へ。ひ。く。も。こ。と。て。将。友。未。え。う。勘。毎。よ。及。べ。と。近。代。ふ。ま。と。そ。の。せ。の。ゆ。と。好。い。ま。あ。絆  
の。袖。を。と。て。元。夜。と。名。告。長。上。下。麻。縫。と。名。を。つ。る。み。是。度。人。武。と。た。う。と。と。示  
す。う。の。絆。縫。を。対。か。大。名。ご。の。き。を。初。め。取。つ。て。は。ま。と。筋。縫。ど。め。ふ。あ。ま。や  
染。ふ。く。と。お。敷。を。ゆ。の。う。も。や。り。よ。れ。綱。も。な。た。うち。ふ。辰。己。の。方。れ。ど。う。も。や  
から。縄。原。泉。の。ほ。め。ひ。ま。と。お。じ。み。り。ま。と。結。び。と。縫。手。ゆ。く。と。する。舌。の。生。ま。り  
お。が。え。を。す。お。方。じ。や。す。ア。禁。な。や。す。と。劫。か。ん。と。晒。の。名。物。す。と。す。と。浅。表。ふ  
ゆ。ゆ。も。ゆ。す。あ。あ。中。船。う。す。ほ。ま。う。る。額。の。色。と。と。び。糸。す。あ。ひ。ま。と

あそびなまくらへけよへお氣より入る種族も近くへきてあらうと。後後アシタに、  
時計一時をもてやよ出でた。食するをもうりゆり池より蛙のなづ声ハス。やニツモ若  
みどり。ひはくしふ不草。しゆも巻せきよ塗にて日比の手との種族もうる  
と。穀草。ちくと別て曝塗。えさかのなづに。家に霧水をとどまらすへまゆう身。  
室助ムロト人ヒトあらまつをく。前じやさを行場をあらね。先發辰東タケミかと  
まつて。ひと。けふ。簾倉の山に塗。肩より雲ふ。跡を塗。そもん鹿のうそをみて。互  
に車の種族もゆり。一村中の下に棲む。兔を見付つ。あ。一ノト。山に。かく見  
又。そ。急ぐ。谷へ逃げ。あ。う。ナ追浩。ひつうの極カタを。巣スズメより。幸りう  
遂。う。被り。す。さ。め。す。ま。ぼく。塗。う。ま。う。ま。ぎ。く。紫。め。や。ま。う。塗。う。す  
り。ぬ。ゆ。して。氣。と。う。や。小紋。お。あ。ま。う。う。う。が。塗。う。か。う。に。拂。う。足。す  
ふ。祐。經。食。と。取。次。の。躬。比。ま。う。の。と。か。わ。れ。ば。足。ぞ。五。久。の。塗。り。す。誠。ゆ。青。葉。  
赤。白。葉。一。小。さ。う。が。づ。と。あ。ざ。つ。ま。う。ゆ。よう。り。赤。の。血。や。の。色。た。ち。も。ち。から  
から。深。ま。こ。れ。で。も。ま。ま。び。じ。ま。い。が。や。ま。ま。た。み。あ。う。出。て。あ。の。塗。の。  
並。よ。浴衣。の。ね。と。深。ま。こ。れ。や。ま。ま。と。西。ユ。安。ど。の。足。一。人の。紋。西。塗。ま。ね。び。ひ。の。頬。う。ぎ。  
「うちごと。と。せ。て。化。く。う。り。と。ひ。き。と。食。く。と。食。く。と。の。画。教。を。ど。こ。ぞ。と。ぐ。う。の。ち。區。  
ふ。も。る。が。よ。ね。足。穿。の。を。身。振。う。う。と。六。あ。の。が。や。め。イ。ヤ。を。く。と。も。塗。生。  
二。足。生。と。つ。が。と。山。を。と。う。う。が。う。塗。杜。氏。う。と。と。と。ほ。す。ん。で。五。ま。う。  
六。ふ。の。深。草。ふ。な。ま。だ。か。の。と。蝶。ふ。き。り。ま。う。お。翼。を。か。ま。ぐ。と。じ。か。内  
て。何。を。と。び。う。と。と。お。き。う。う。か。う。あ。う。じ。う。と。や。が。や。そ。ん。お。う。せ。え  
た。じ。て。あ。と。や。か。と。そ。れ。や。た。な。も。な。ひ。食。食。が。う。う。き。ま。う。と。是。先。大。切。す  
き。を。初。め。や。と。う。ま。と。ま。せ。そ。う。と。羽。び。ひ。と。の。と。め。の。下。か。う。の。一。緋。面。ど。う  
か。と。く。が。す。と。ま。一。所。お。ま。の。を。ま。れ。ま。く。と。ま。と。や。さ。き。刀。ふ。か。れ。む  
あ。と。と。ま。と。う。同。の。母。ひ。ま。の。か。と。う。ま。で。う。か。と。う。ば。け。と。限。の。斧。  
あ。ま。ま。ひ。き。四。た。ち。と。き。生。と。び。う。う。と。と。ま。う。の。七。五。と。折。目。匠。と。多。金。を。

おはごとくのひなとまへ「ひざ下とまのじう」と。裾うへたえが  
一ほ前やぞサアらと見せのむれ「あより向つ下ぞ」又山形みへかう  
かりと武士とが一の下深の富士と二保とを深ふて裾尾へ附家安。上へ  
祐成がくわに足もなじの山折目アツ。下小腰を崩坂へあくまも  
かくと勧と便うへ袖の大を奉。さやけ月へ足を此工藝左唐門社経とみぐ  
き出るその示や子をやう道を渡るも「おほしゆひに嘗るの蚕せきの郭公  
りうくと待震。かくへ流きまきの西せ「さくる傘」下うぶ。すむに天元  
いづくと公をもくとも孝の石「とくはより説くとも勝負へ附家一運ハ  
天またとくる祐成がくとて見氣「たの顔のあは」一説もとくとて抱持  
にこやか羽織をくれど「けとぎれりやう」桔梗薺萱それもかう。  
ハキ山吹ふき紫の深梅根「ひ」うだあるゆくして秋鶴の木のとき  
驚異こそか父祐安の寂期までやれり「得友の草」はしこれの附家

「おはごとくの虫はし。紀念よよまと玉葱の袖」走る。今度り川は  
回向ひされねまと。今日そち達が山袖賣志をかくと。離散の手本ふれま  
かくと袖をすうをうるかくしよ「袖を限」そと「せぐ」詰うれとくとく木の  
ぬ一うね深の玉「ひ」の刃やの綱羽。又くわ袖にかけ「も」胸切はて  
くまんごと「そ」手をあきゆ。かく袖「二」連くる雁の「袖」をしきぐりす  
もあり「う」手二ひとふ深うとくとくと手の羽ねが袖頭のゆまうて。らうせん者  
もやと、浴船ふなうわせ、巻を深うるりゆうを袖とてばをもあづま。どうきう袖  
袖のゆもじうとがくとがくと「あ」が足が又ま縫てのせうとの山袖「袖」  
「敵」みぐも「仁めりまめり」かもとひひとめつ。どれとくまえ、三事  
袖。柳搖ふ松樹搖ふ岩紅葉よ唐竹よ崔や、崔よ蝶ませのハキ山吹  
かくと根よ鳳凰。獅子ゆぼく扇流しゆう、「小」りんからまちとび紋紫  
かのとふう人の「そ」をあづりて、見深立。浪女浪岩ふ壁もかゑひのよれも

未よ。あふとすれどあや松のけや初夏の空き半でも。青い月代え渡しもく。  
されば一人一河津の二郎祐安がつとめがみ。ナ郎祐成。五郎时宗。今日の見  
參まね漫山の縞配。み鶴の龜さうくの声ねがね。かぶんづりて。万秋  
萬歳。一方も縞となぶ二人も同生。うる存たてまづりは事當。

せうまの友人勤る。もびく風流相生獅子石橋の元作事。こ最初てつとじ。御室ふ  
古今を双の大歎。柳の風流石橋の義道の達人。ひま。義道へ相付首。を。  
其上へ自分の工夫をりて。振を附へる。妙く奇くれもあり。今すばほて家の芸  
と称。とぞ。同春市村座姿視隅田川嵐。と有備門病氣全快して。至に狂言。  
足ハ得手とぞ。いふもや不あり。二ぞんや五人男園十郎。度治。考之郎  
は立郎。竹の巣役者。持つてしが評判うそく。五月より。根元今川狀。堂十郎不破のは左備門。山本勘助。ふ  
竹の巣猪のそや太國十郎。秋より。

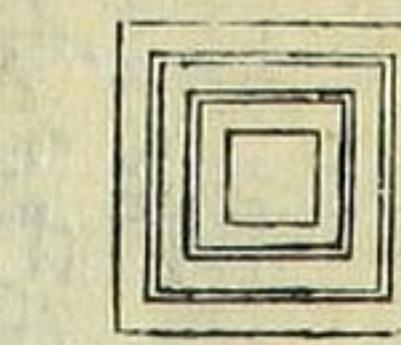
**根元今川狀**

堂十郎不破のは左備門。

山本勘助。ふ

升五郎。あへ勇士揃ひ合軍談。ひそく別よ。大入大繁昌。同年霜月坂東亮介郎。  
嵐と有備門。姉川新四郎也。中村新五郎。中村座へり。中村座教見勢。  
鎌足よもや十郎。金毘羅役を備つ。實は万户の軍。中村新五郎。あへはら合ひてき。  
入鹿の大ほふと雨右備門。げのせんと笠原おづ。似せやくふべ。搔そと。少陣の中へかと  
えんと。下へ山上浦内。ゆて候二郎。角から頬を打つ。う。あふとすめり。  
なんづりよ七と町。市村座の陸奥守源氏。一ぞん目治の橘姫の鬼女。竹之塔。  
渡辺の綱。十郎。此所をよみてあへ同答。大評判。清原の武衡。家三郎。加茂の  
次郎。富五郎。せつ。せんと。の。あへ。と。声。と。鎌倉の松五郎。あへ。市川  
国系大ゆう。あへ。出ハ國妙女房。松崎。民家ふ。竹之塔。ね。鷹庄五郎。さう。田  
長四郎。あへ。け合の長唄。と。枕久の所作。の。あへ。ま。出羽織大小。近身。女  
は。え。男女の仕分。井。井筒の連所作。の。あへ。任度治と草摺。

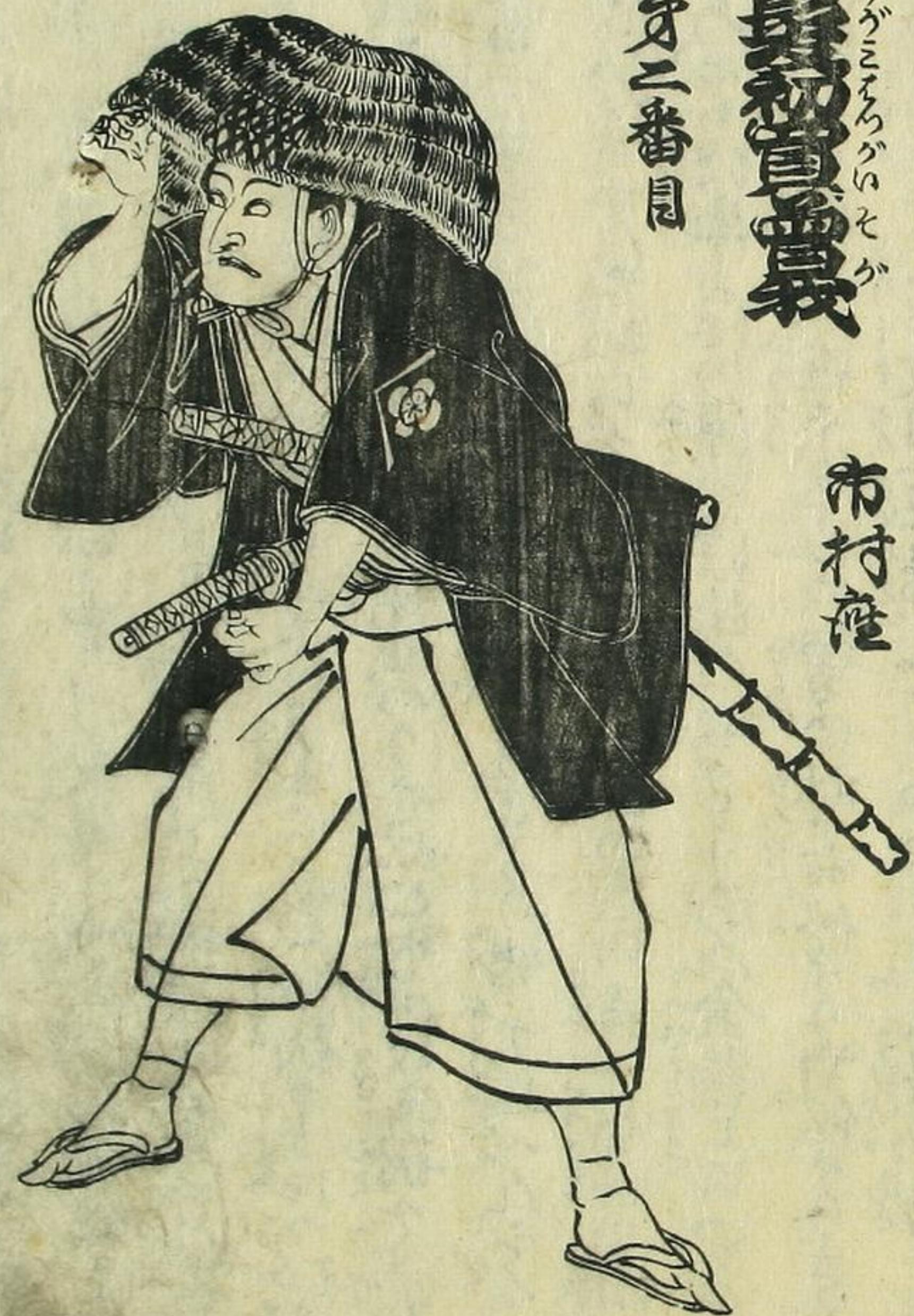
ひき  
のゆふ。ひゆうゆあらう。  
のゆふ。ゆふ任女房。まことかくわ葉治郎。二ぢん目。國十郎平吉。國妙みて上下  
百日。ひづく。さうだ役大評判大商アモ。享保二十卯年春市村座  
時宗ふ。市川升五郎。虚無僧の出淨漏理。又ハ初音の寶船。江戸太夫巻十郎。との  
狂言ハ先年國十郎は。藝。則卷十郎鬼王みて切落見物の中より五中の間  
のめ色こみす。うたひばしの琴云とて大評判。又三井自作曲。江戸中ひひを。  
せあをとおる。大入大出。四月中旬。病氣もて。御十月の比快。國十郎の子。又  
將升五郎へ譲り。我ハ親の稚名海老藏。又。誂名三升。柏延と改る。五代目白猿  
りう。祖父病氣全快。近江國多賀大明神へ祈。又。檢有。あらひの童名を  
はぎ。木性の生なれば。柏と延との文字を。木百サ延と夢よじよう付とかる。  
市村座 薩月連理玉櫛  
令付を。おさん。姉川お代三重。や伊八。新五郎。家十郎。おさん  
親。あうたへの山豊後。や。そで。院。大入大當。今。木挽町。まんじま



振分髪初賣

市村座

身二番目



言葉

ばくし

謡

ゆめ

鬼王新左衛門  
市川國十郎

## わふ言葉謡ほくし

市川國十郎作

あらぐく。あざかく神田四谷赤坂鰐町大手所源川佃じま。白魚がみの網の目  
も。冥十日のスル所十指のゆびまた大評判四方八方十方せうの淨土も法華も  
交ふ。袖をつゝひて見物のあらうがゆうすま風が明の方からぬまや町  
は門あふ市村の筋狂云のまづふくへ。イヨお出で市川のあんぞあやぢふ  
井上郎さあ。ちくとぞうゆづれが舌のすりぬることを。朝うにげむどく  
とかゆひての届。さんどの役割さんばく親ゆづりたせとも傍立胡うし出端を  
松雞子。てんこの鞍富士よ。山田ハ吹筋尺八の竹ハとより笛せ鳴べんざるびづ  
べきの天てとじゆらひイヨさんや。あらぐくと同音ふ。きのきの声ハ高砂やけ狂言  
ふ名をあげて月りくものに生。月の浪の洋蔵の嶋こう。あん金箱をひくとも。  
先達指の諸合へにふくらみに在るや。むし男の杜若似うや似うするふふ  
似ても理り是ゆ事あ。菖蒲ふれ政現在鬱。えうやあうと矢斗の薦るどしうが

き了狂言。うらう長毫のぢの様も腰ゆめづきのらハ腰。阿漕み白壁食ひて  
さめぢくおみれどもひひそ。一番叟くら強る娘ふじとこはとこか姫こにひぢ  
にじくれみ。捨山捨山の老女ゆ江口の君も。ゆかそらげゆかへ草やまくち一  
ひ。切落のれ。百萬賣まく。葬墓へゆるゆめいへめぐうと西の様。よ西王母  
东のはじふ東方朔。樂意のうじゆあいを榮む。合に合たどとの火なまそ  
天の羽衣ほくとまく。劉公あらん。まくとせうくお燭の柄。枝うなづく。安らう  
かうな少。アん松風さたう。平肩あうだ。あうまうが。下。感陽宮。あう。下。宣  
あんぬよう。とくふふあうううう。と井局吸づ二井橋。二人程。や。世人。程。ゆ  
へようう養老弱法師。よもけみづらもれ買。て。明六。ヨウ。ふくらま。傷車。て。う。と  
一の富。あらぐく。寝山石白山世界のまう。大會の峰。うらぐふも。ゆら。老松隱居  
ま。そんすう。追ねえ服。我衣。蓑。ひづり。まげ。二井の小祖。そ。う。老松隱居  
の。角うら。わく。奉頂羽。冥の。漫良。そ。ゆれ。み。女。即。元。タ。朝。深。海。ま。ま。

源氏ぐやうせふ是す。だりて我あら長に上さと狂言のがやま焼と思へ。もかへり。もあやるる間を刻ひまと。さてこまねえたりとて。誠み四角み箱主す。そとが親の子さうが竜神が。されば。と行の雪舟のあやめのうとくふ。よしんばすがれ御子石鴉文殊の耳きく。大ぜひの仮まもまぬのまえ中に。ト僕トねう參て。をりゆうの加減。和布刈をきうせて。あまん。よ長ひ。あれ。盛え。が。あほくしまれ。ううで。阿漕み。下く。樂ま。ゆも。山をなきれて。昇羽の明神。ニ論加茂雷電蟻通耶鄭。ごいと。番組。そく。田村の井。柏寿。こくらても。じよ。地主頌。寺。那波の芦荷。伊勢。濱萩。八嶋の外。鹿松。琉城。白樂天。とすみ。下。隅田川。行徳。船橋。船舟。けい。鷺舟。まのじ。ま。し。見渡。見る。江洋判。六千人。交定。あり。と。行船の。あ。縄。西。り。櫂。の。ま。盛。柳。櫂。を。と。ま。て。さ。居。そ。ま。れ。源木。門。い。お。田。の。経。幕。これ。少。も。強。ひ。ま。う。は。み。洋判。七月。す。べ。か。狂。云。う。融。の大。臣。と。舍利。よ。う。でも。我あ。信。合。あ。祇。み。ま。き。の。そ。入。の。船。の。付。る。こ。と。あ。傍。と。あ。無。野。ま。て。ま。れ。

せうあらの  
ま下れづれ。森田勘添休座。河原勝權。之助。代。坐。國。二月。廿一日。ト。う。芝居。行

漁船鑑入間

こま成。仙國。左助竹成。よ。鶴。姫。南北。い。ご。の。川。勝。よ。江。戸。七。七。夫。

久米の平内。よ坂。田。せ。五。郎。二。浦。の。三。尾。袖。達。二。輪。岸。同。大。注。よ。山。下。龜。七。郎。女。守。の。大。臣。早。川。新。務。平。内。女。房。の。不。晴。河。东。奇。接。之。助。り。同。七。月。う。

大。森。彦。七。よ。簾。倉。長。九。郎。ゆ。か。直。義。仙。國。彦。助。和。田。次。郎。ふ。江。戸。セ。ま。あ。ん。や

判。官。ふ。中。村。正。治。伊。藤。雲。井。ご。せ。ん。ふ。三。輪。序。捕。正。保。河。東。邊。權。之。助。之。同。跡。狂。

市。川。門。之。助。七。回。忌。追。善。美。池。

座。本。松。三。助。山。下。龜。七。郎。勤。る。役。者。不。せ。う。れ。す。

洋。射。よ。霜。月。市。川。益。養。萩。世。作。二。郎。河。東。清。度。行。う。霜。月。市。村。ゆ。あ。で。松。本

七。参。松。本。幸。四。郎。と。改。實。惡。と。成。今。幸。霜。月。教。見。世。河。東。清。座。萬。歲。勢。傳。百。記。

伊。藤。九。郎。被。清。ひ。ま。う。入。道。ふ。市。川。國。四。郎。藻。田。う。後。家。そ。く。度。よ。川。永。邊。権。之。助。み。る

鷺。小。袖。壽。シ。輪。序。ま。田。の。与。市。よ。萩。世。作。二。郎。作。入。た。ふ。鶴。丸。と。富。の。札。下。邊。

命をさんと沢深娘のなきに場へあがとと声うけかく江戸町ほしのせりぬ。  
満老翁りどと評判大入大ありし中村座へ殿造篠栗妻 安姫の保成家十郎。源  
の親翁を町。平井の保昌七二町をう波され、甫吉唐門城のまきかく姉川  
五代ニモて祇王室十郎きの田の通行の所。大でん大もみうがん市らむ。海  
源七小町 升五郎改市川今國十郎。青龍丸荒虎あぐふくれ出。大文字和漢の長  
せりぬ。叔父よもはうの評判づ。殿の后ふ松本幸四郎。なり平ふ竹三郎。紀の  
各とら宗二郎。小野小町あま恋。官女伊勢よま次郎。大江の岩戸左唐つ度治  
候主の大蔵。海老翁改名を病後退職を免て。度治と引合ふ。見お様方  
久あても自スえ仕のまこと。病中れぬ上半へ家根の上ふ忍び者ある。  
あやりんを打。うて押へねりのと詮義されば。いふがやからぬ女と名す大勢を  
うり巻を病後ゆゑ力がよい。せりより射へ親のる。伴こりわらば斤ばけひ。今

國十郎ふ荒車火のぼるところ見物のをやうぢへむり。中村座大入を。此顔見世よりひ村家十郎。轄上上吉と評判記より。その日の事といふ。

**享保三十辰年** 春中村座 殿君鑑異 家十郎そびの十郎みて機の枝へ逃すと約。林えふ酒をあらじと機を折て焚。その煙の中より姉川五代ニ大旗のそり  
めてゆふれ出。清間の糞のとく淨あり。家機傾城姿とひよ。五代太夫都千仲  
相勤め。下化ゆ評判よ。同家十郎林の由兵清の男力達跡ると鳥を獲。紺  
褐子白をものに身替りの衣装此あれもと頃巾へ縫をあら。見み事に良  
宮川八郎左衛門と相手に男立。今と始りの姫衣よしやまうよと尻伏かくび。頃巾をこれば前り。奴ゆゑ初日足物うとふる声。其居り者すとぞうと  
やけ狂言。告よ家十郎。江戸太夫又皆江戸家十郎淨うりも。明馬らせうの枕  
相勤海ふ大入大くらうとか。此せうの既中のうち。今ふ家十郎の名を残す。

同辰年市村座春狂言海老兵高まく付出生勤ひんのちすや。不入ヒレ。四月朔日

より帆柱太平記

市川滿春兵兵二役山の出。吉田の兼好入道にて兼好法師と

成毎日新作の狂ふを身臺ゆそ披ひと同元祖國十郎批三回忌の追告の波

喜門譽入室覺榮信士と圓向諸見物大評判。次よ篠塚五郎の荒るの相模  
入道おな傳門を端のあ。長崎かげ色左衛門家とみ草榜のたて。人評判大商り

也。中村座の入をうえせと役者店おほしふとぞ五月七日改元元文元丙辰年

狂言東海道湯汲車

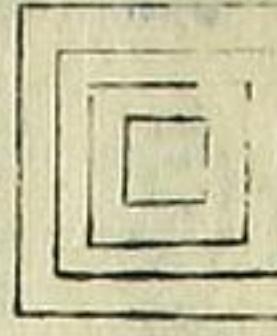
海老兵後葛左衛門の役。小栗判官母竹之原池の庄司も

圓十郎角かばくは荒事大評判。毒ばくのせつぶ二どん圓せき海老兵魚うさ。

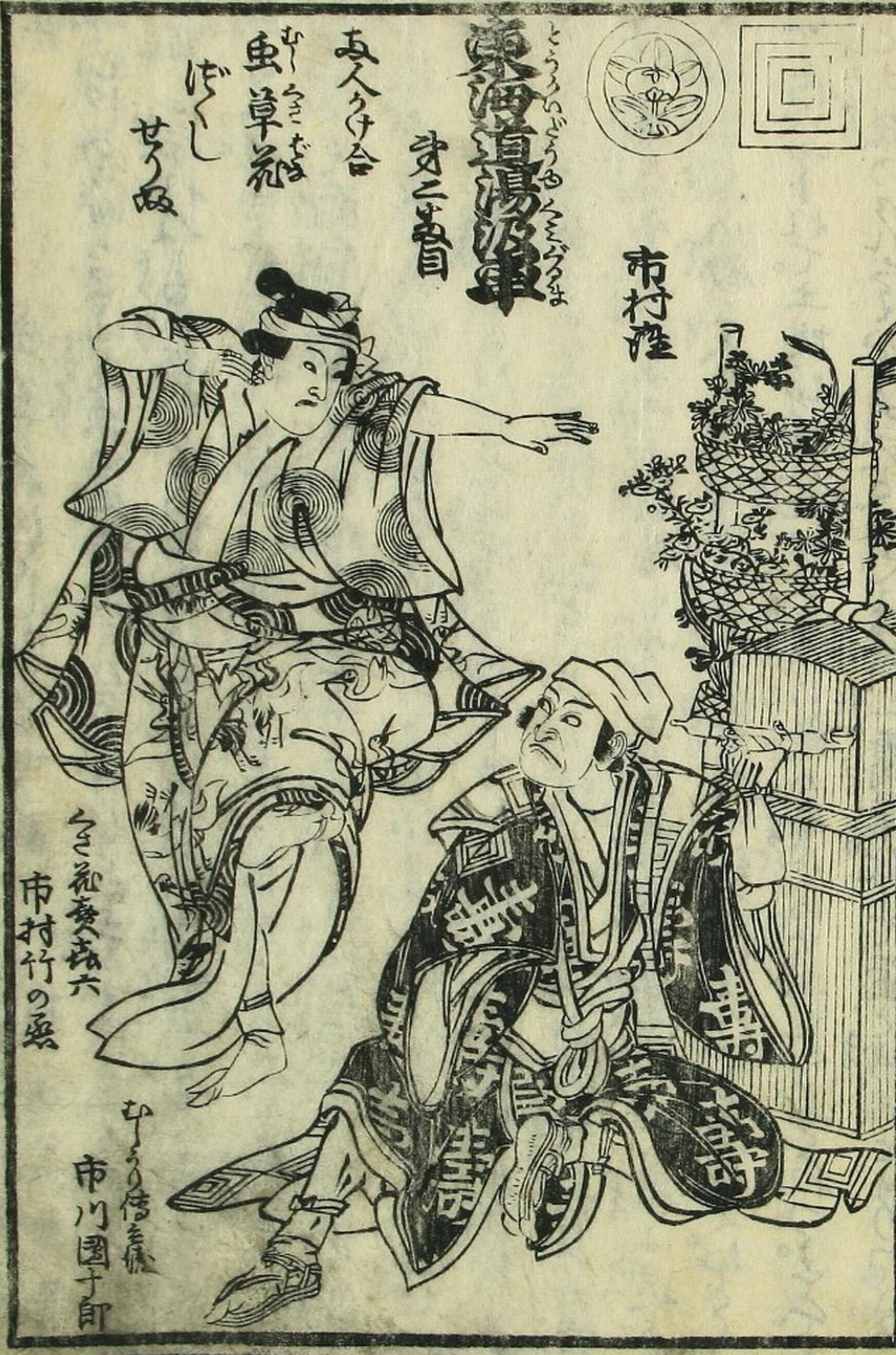
竹之原草兵兵ふそ。かげ合のせつぶ太入太當面けめも九月九日より。海老兵

本郷町河原邊座へゆく名残狂言四人不動圆恵の不動お海老兵。圆赤

の不動よ庚辰。同白お不動よ圓十郎。圆青せ不動お化之原。仰とも大評判す。



市村座



## 虫草花はトしかけ合せり

市川海老翁

中じしのみうらよ。友の太ちよとんくぬきりと。家ふきこり。斧<sup>アハ</sup>り。移車をねれねる。家ゆり。されども。汝子のなれゆを。南無や志<sup>アヒト</sup>法寺の観音。  
あらす。あきせひあへ。ばかりに。蛭虫ひと方<sup>ハシ</sup>に。誕生<sup>ハタキ</sup>。がきよも。矢<sup>アマ</sup>葉の面を  
そひぐと。面向不背の玉虫<sup>ミヤクモ</sup>。名付らる。その比光源氏の末<sup>アシタカ</sup>。源の  
渡<sup>アシタカ</sup>が孫みみの蠶とて。かうんの巻られよふかる。また人のえくる。玉虫<sup>ミヤクモ</sup>  
をあつくりか。声をもたてぬみび浪<sup>アマモカ</sup>わづる。と膝<sup>ヒギ</sup>のう。おりひみおほこそ  
あびしる。あひよあひう孫の土<sup>アシタカ</sup>。そと。とあうる天のあみ。殺生好のあれ  
り。かの姫<sup>アシタカ</sup>君<sup>コイクセ</sup>と立<sup>アシタカ</sup>風<sup>アシタカ</sup>。已<sup>アシタカ</sup>が家屋<sup>アシタカ</sup>もゆ。せうり。女郎蝶<sup>アシタカ</sup>を案<sup>アシタカ</sup>内<sup>アシタカ</sup>。密<sup>アシタカ</sup>よ這<sup>アシタカ</sup>  
姫の園<sup>アシタカ</sup>。あ草の殿<sup>アシタカ</sup>に入られべ。かほきり公<sup>アシタカ</sup>へ歸<sup>アシタカ</sup>。て。まほんぞ度<sup>アシタカ</sup>庵<sup>アシタカ</sup>へ。もくひ  
こいとゆふれて。土蝶<sup>アシタカ</sup>止<sup>アシタカ</sup>がく。ゑの敵<sup>アシタカ</sup>ハ螢火の火<sup>アシタカ</sup>がれよかれつ。とて。ま  
螢<sup>アシタカ</sup>と土蝶<sup>アシタカ</sup>のさんくわかううだと。そくよけん。腐草化<sup>アシタカ</sup>て。蠶と成<sup>アシタカ</sup>り。とよりほきる。

草のせ。けは。を葉桔梗<sup>アシタカ</sup>。いや蠶の味方せんと。築山の禁<sup>アシタカ</sup>。泉あ寺<sup>アシタカ</sup>。よ集<sup>アシタカ</sup>て。  
御<sup>アシタカ</sup>御<sup>アシタカ</sup>叶<sup>アシタカ</sup>を持<sup>アシタカ</sup>り。せん牡丹芳<sup>アシタカ</sup>。葉萩<sup>アシタカ</sup>。と。公<sup>アシタカ</sup>の薙<sup>アシタカ</sup>萱<sup>アシタカ</sup>。す。ひま<sup>アシタカ</sup>。は暮<sup>アシタカ</sup>の  
草<sup>アシタカ</sup>。ま<sup>アシタカ</sup>。せき<sup>アシタカ</sup>。切<sup>アシタカ</sup>。そな<sup>アシタカ</sup>。ひき<sup>アシタカ</sup>。ある。付<sup>アシタカ</sup>。よ。仁<sup>アシタカ</sup>藏<sup>アシタカ</sup>。波<sup>アシタカ</sup>仙<sup>アシタカ</sup>。わら<sup>アシタカ</sup>。の。させん<sup>アシタカ</sup>。じ<sup>アシタカ</sup>。出<sup>アシタカ</sup>。む<sup>アシタカ</sup>。う<sup>アシタカ</sup>。  
あく<sup>アシタカ</sup>。ゆく<sup>アシタカ</sup>。と。おひつ。端<sup>アシタカ</sup>の振<sup>アシタカ</sup>。舞<sup>アシタカ</sup>。あり。木火土金水<sup>アシタカ</sup>。の五<sup>アシタカ</sup>。ま<sup>アシタカ</sup>。おま<sup>アシタカ</sup>。う<sup>アシタカ</sup>。  
と。ご<sup>アシタカ</sup>。く<sup>アシタカ</sup>。佛<sup>アシタカ</sup>。の<sup>アシタカ</sup>。ま<sup>アシタカ</sup>。で。施<sup>アシタカ</sup>の<sup>アシタカ</sup>。果<sup>アシタカ</sup>。を<sup>アシタカ</sup>。う<sup>アシタカ</sup>。だ<sup>アシタカ</sup>。こ<sup>アシタカ</sup>。の<sup>アシタカ</sup>。ゆ<sup>アシタカ</sup>。と<sup>アシタカ</sup>。ひ<sup>アシタカ</sup>。ゆ<sup>アシタカ</sup>。合<sup>アシタカ</sup>。な<sup>アシタカ</sup>。し<sup>アシタカ</sup>。と<sup>アシタカ</sup>。種<sup>アシタカ</sup>。は<sup>アシタカ</sup>。候<sup>アシタカ</sup>。暖<sup>アシタカ</sup>。  
袋<sup>アシタカ</sup>。塗<sup>アシタカ</sup>。を<sup>アシタカ</sup>。アレ<sup>アシタカ</sup>。かき<sup>アシタカ</sup>。が<sup>アシタカ</sup>。土<sup>アシタカ</sup>。中<sup>アシタカ</sup>。に<sup>アシタカ</sup>。埋<sup>アシタカ</sup>。め<sup>アシタカ</sup>。て<sup>アシタカ</sup>。せう<sup>アシタカ</sup>。き<sup>アシタカ</sup>。の<sup>アシタカ</sup>。土<sup>アシタカ</sup>。株<sup>アシタカ</sup>。は<sup>アシタカ</sup>。く<sup>アシタカ</sup>。れ<sup>アシタカ</sup>。と<sup>アシタカ</sup>。栗<sup>アシタカ</sup>。や<sup>アシタカ</sup>。稗<sup>アシタカ</sup>。  
わ<sup>アシタカ</sup>。う<sup>アシタカ</sup>。も<sup>アシタカ</sup>。か<sup>アシタカ</sup>。と<sup>アシタカ</sup>。突<sup>アシタカ</sup>。す<sup>アシタカ</sup>。と<sup>アシタカ</sup>。せ<sup>アシタカ</sup>。ま<sup>アシタカ</sup>。中<sup>アシタカ</sup>。の<sup>アシタカ</sup>。ぎ<sup>アシタカ</sup>。や<sup>アシタカ</sup>。に<sup>アシタカ</sup>。苏<sup>アシタカ</sup>。す<sup>アシタカ</sup>。ぼ<sup>アシタカ</sup>。う<sup>アシタカ</sup>。と<sup>アシタカ</sup>。引<sup>アシタカ</sup>。連<sup>アシタカ</sup>。れ<sup>アシタカ</sup>。  
わ<sup>アシタカ</sup>。れ<sup>アシタカ</sup>。も<sup>アシタカ</sup>。か<sup>アシタカ</sup>。と<sup>アシタカ</sup>。突<sup>アシタカ</sup>。す<sup>アシタカ</sup>。と<sup>アシタカ</sup>。た<sup>アシタカ</sup>。う<sup>アシタカ</sup>。い<sup>アシタカ</sup>。け<sup>アシタカ</sup>。か<sup>アシタカ</sup>。胡<sup>アシタカ</sup>麻<sup>アシタカ</sup>。か<sup>アシタカ</sup>。に<sup>アシタカ</sup>。辛<sup>アシタカ</sup>。き<sup>アシタカ</sup>。ゆ<sup>アシタカ</sup>。せん<sup>アシタカ</sup>。  
せん<sup>アシタカ</sup>。ほ<sup>アシタカ</sup>。の<sup>アシタカ</sup>。責<sup>アシタカ</sup>。は<sup>アシタカ</sup>。み<sup>アシタカ</sup>。打<sup>アシタカ</sup>。す<sup>アシタカ</sup>。と<sup>アシタカ</sup>。押<sup>アシタカ</sup>。す<sup>アシタカ</sup>。つ<sup>アシタカ</sup>。また<sup>アシタカ</sup>。國羽<sup>アシタカ</sup>。が<sup>アシタカ</sup>。聲<sup>アシタカ</sup>。入<sup>アシタカ</sup>。參<sup>アシタカ</sup>。慶<sup>アシタカ</sup>。り。と<sup>アシタカ</sup>。ひき<sup>アシタカ</sup>。ま<sup>アシタカ</sup>。日本<sup>アシタカ</sup>。の<sup>アシタカ</sup>。ま<sup>アシタカ</sup>。び<sup>アシタカ</sup>。生<sup>アシタカ</sup>。す<sup>アシタカ</sup>。あ<sup>アシタカ</sup>。と<sup>アシタカ</sup>。う<sup>アシタカ</sup>。説<sup>アシタカ</sup>。定<sup>アシタカ</sup>。て<sup>アシタカ</sup>。と<sup>アシタカ</sup>。す<sup>アシタカ</sup>。う<sup>アシタカ</sup>。ほ<sup>アシタカ</sup>。り<sup>アシタカ</sup>。あ<sup>アシタカ</sup>。ひ<sup>アシタカ</sup>。み<sup>アシタカ</sup>。も<sup>アシタカ</sup>。打<sup>アシタカ</sup>。す<sup>アシタカ</sup>。れ<sup>アシタカ</sup>。ふ<sup>アシタカ</sup>。を<sup>アシタカ</sup>。  
造<sup>アシタカ</sup>。ぞ<sup>アシタカ</sup>。り<sup>アシタカ</sup>。る<sup>アシタカ</sup>。土<sup>アシタカ</sup>。蝶<sup>アシタカ</sup>。は<sup>アシタカ</sup>。變<sup>アシタカ</sup>。よ<sup>アシタカ</sup>。も<sup>アシタカ</sup>。先<sup>アシタカ</sup>。け<sup>アシタカ</sup>。と<sup>アシタカ</sup>。打<sup>アシタカ</sup>。そ<sup>アシタカ</sup>。ひ<sup>アシタカ</sup>。う<sup>アシタカ</sup>。る<sup>アシタカ</sup>。草<sup>アシタカ</sup>。花<sup>アシタカ</sup>。の<sup>アシタカ</sup>。腕<sup>アシタカ</sup>。

を。薦衣みぢいふもつ。尼。まう。まう。の姿。きどん。僕。が。牧。まつ。夕。嬢。主。夜。が。暮。る。そ  
蟹の様。も。の蟹。が。姫。る。と。い牛。も。じ。大。の。塊。五十二。難。や。五十三。次。石。中の。わ。ー。む。  
もう。よう。に。ふく。ま。れ。て。そ。う。ま。う。く。つ。れ。波。う。せ。り。て。も。か。う。ん。ど。も。ひ。づ。え。守。れ。惡。燒  
も。毒。葉。變。ド。て。惣。葉。毛。虫。も。蝶。と。變。ざ。れ。ば。だ。う。う。虫。が。蚊。ふ。う。る。天。蛇。の。え  
ま。う。玉。虫。娘。い。び。で。も。さ。し。た。ら。う。ち。か。く。蜂。よ。百。足。ふ。媒。よ。ど。萩。攻。よ。生。え。け。が  
を。奉。り。令。よ。善。の。み。い。か。う。ふ。ぐ。の。菴。で。念。佛。ま。う。せ。り。く。を。ま。ぐ。と。園。け。よ。ふ。あ。や。ア  
う。ら。と。う。か。く。せ。ひ。痛。や。目。ま。い。ま。ひ。く。は。ゆ。り。角。だ。せ。徒。よ。せ。が。り。軒。巻。す。ふ  
か。う。よ。と。こ。え。ふ。ク。經。竹。が。う。風。う。と。吹。づ。れ。兩。え。ん。け。ん。ぐ。ま。を。潤。し。草。が。ん  
ぐ。ち。ま。く。え。と。こ。う。靡。て。そ。ま。と。ひ。く。又。ま。う。く。た。る。虫。の。声。ハ。もう。よ。う。し。う。荒。壁。入  
穴。ぞ。入。へ。て。陣。を。む。竹。そ。う。ち。の。陣。み。く。諸。う。マ。キ。う。せ。つ。ち。く。ま。居。か。ま。や。町。市。村  
竹。の。直。す。る。御。代。竹。市。川。あ。び。の。目。出。れ。な。だ。一。と。た。ー。も。五。秋。一。ぞ。ん。ぜ。の。  
ま。く。あ。く。ふ。と。の。玉。い。ー。み。の。が。く。と。あ。ら。や。ま。う。て。ま。う。に。



## 龍王撕竜ぼしのせりぬ 三代目 市川 國十郎

䷔ 易の乾の卦。水の洞より流れ火の乾をほほ。虎嘯け、風謳び、龍吟  
ぞれの雲。コリヤシ。あ聲をすむ合の土人形たどり。大に。中  
遠く。奈も常陸小總のたゞ。小栗の判官と森氏の郎等。此の庄司門  
ノ白壁へ拂代參め。馬の鞍打て。下。あや。馬上の虎嘯  
家極まで。降り。わげたの。あれよほの字。惚まづぎ。あびぐべ。近音には是  
擗る。松木の角を。お蛇方。ア。角もなし。サケダ。で。ちくせんは。就  
でもきく。ぬく。あの方たがひ。上。龍。あひ。ろく。ぞ。あれ。次第にして。うのう  
や。なり。止。下。下り。舟を。まみ。せざひ。それでも。おけんやまれ。後。龍宮  
淨土今。ビ。馬。み。まう。池の。え。付。ら。おまの。ない。門を。あ。ひ。う。せ。と。竜王の  
活。並。は。く。ん。や。上。ほ。つ。ア。られたら。も。天。止。や。お。そ。も。す。う。と。の。き。へ。出。す。ん  
ま。を。龍王ハ。八。龍王。な。ぐ。と。駒王。ち。う。つ。う。駒王。ア。う。う。う。駒王。ア。う。う。う。

龍王。か。や。う。竜王。あ。み。ご。う。と。駒王。ま。ほ。駒王。う。ひ。ま。う。駒王。板巻軸  
と。竹。之。函。ま。う。が。あ。と。と。ほ。ふ。ま。も。」  
十三年。居形の。芝居。あ。前。金町へ行。名残。九月。節句。よ。嶋。浪。の。狂言。中村  
の里。市村の里へ。我。ゆ。ぶ。跡。く。公。え。ほ。と。り。ひ。一。見物へ。封。過言。い。との。ひ。ち。う。だ。ん。も。く。  
天神の繪。千幅。富。も。出。と。以。ぐ。も。但。者。れ思。ひ。遠。も。や。ま。ぞ。の。評。判。は。

## 增補天神記

宗十郎菅原相の役。事保九辰年より。

同秋。中村座。八月九日より  
十三年。居形の。芝居。あ。前。金町へ行。名残。九月。節句。よ。嶋。浪。の。狂言。中村  
の里。市村の里へ。我。ゆ。ぶ。跡。く。公。え。ほ。と。り。ひ。一。見物へ。封。過言。い。との。ひ。ち。う。だ。ん。も。く。  
天神の繪。千幅。富。も。出。と。以。ぐ。も。但。者。れ思。ひ。遠。も。や。ま。ぞ。の。評。判。は。

